「区における行政への参加の考え方」検討の方向性に関する説明会
区民会議委員経験者からの主な意見（麻生区）

1　開催状況

（1）日　時　　令和2年12月22日（火）　15:30～16:50
（2）会　場　　麻生区役所4階第2会議室
（3）参加者　　11名

2　実施概要

1．開会
井川区政推進課長から挨拶した。

2．「区における行政への参加の考え方」検討の方向性の説明
配布資料に沿って、説明した。

3．質疑応答
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換した。

4．閉会

3　意見交換の内容（要旨）

（1）　事務局をどういう風にやっていくのか。どうやって運営していくかを考えるのにも、区民や利害関係者が入っても良いのではないか。それによって成果がかわると思う。

（市民文化局区政推進課）

今の意見でいうと、事務局に区民が入っていてやるのも、1つのアイディアだと思う。そういったことを書いていないのは、事務局を区民とやっていくと初めから書くと、それは何だと言う人もいる。それをやる時に、どういった制度設計でやるのかは、これから検討していきたい。枠を決めてやるというよりも、テーマや課題に応じて、やっていく。

（2）　課題やテーマは、誰が、どのように決めるのか。

（市民文化局区政推進課）

これまでの区民会議は、1年間のうち、半分くらいの時間を使って、何を議題にするかの意見交換に使ってしまっていた。人によっては、それが必要な取組という人がいる一方で、長すぎると感じる方もいた。これからの取組について、行政側からテーマを示させていただく

部分もあるかと思うが、区民の方から、提案いただくというということも今の検討課題になっているので、行政が決めた議題で意見交換するということではなくて、皆さんの実感にあった課題の設定について、パターンを整理しながら、検討していきたい。

（3） これまでの区民会議は、委員構成に偏りがあり、コミュニティの下の人の意見が出ないし、おそらく出しても議題に取り上げられないということで、偏りがあった。

どうやってメンバーを選出するのか。例えば、「まちのひろば」を活用して、吸い上げるものなのか、そこが重要である。

また、意見をまとめるような事務局も必要だと思う。区民会議は提案ありきだったので、いかに一般の区民の意見を吸い上げるしくみを考える必要がある。

（市民文化局区政推進課）

これまでの区民会議は、一定の分野で活動されている方から、出てきてもらい、ある程度枠組みが決まっていた。そのため、テーマによっては、あまり興味のない人もいた。

「区における行政への参加の考え方」は、型にはまった取組ではなく、議題やテーマに応じて、色々なパターンを考えている。「まちのひろば」で出ている課題を捉えて、テーマにするというのもあるかと思う。テーマによっても違うと思っているので、その時に応じてやっていく。また、ワークショップなどをやる場合には、無作為抽出の方法も考えており、常日頃手を挙げない人に参加してもらう機会を作るなどにチャレンジしていきたい。

（4） 区民会議をリニューアルした背景は何か。

SDCとの連携はどう考えているのか。

柔軟なしくみとあるが、誰がコーディネートしていくのか。行政がやるのか。

（市民文化局区政推進課）

希望のシナリオと新しい参加の場の源は一緒である。ソーシャルデザインセンター（以下、「SDC」という。）の取組が先行して進んでいるが、SDCだけがコミュニティ施策に紐づく取組ではない。区における行政への参加についても、コミュニティ施策に基づき、リニューアルしていきたい。SDCとは別に取組を進めている。「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の中にも、同じように区民会議もリニューアルすると書いてあるので、変わっていない。

SDCとの連携については、区ごとに温度差がある。どういう連携があるかというのは、答えがあるわけではないが、例えば、テーマ出しをSDCと一緒にやっていくことや、SDCの方に、新しい参加の場に来てもらうこともあり得る。

（5） 課題論議は、もうよい。まちづくり白書には、課題という発射台があり、それにどう屋根をつけるかが、大切であると書かれているので、そういった観念が必要。

（市民文化局区政推進課）

区づくり白書をついては、地域に積み上がっているものである。例えば、これから地域に出て活動しようという方が、全部紐解いてそれをやるかというと、そうではないので、自分の手、足、頭を使って、実行まで持っていきたいという方も、一方ではいると思う。

やってきた取組に屋根をつけていくという取組をやられる方もいれば、新しい形で加わっていただく場合もあると思う。

（6） 麻生区の先輩方がこれまでに取り組んだ内容があるので、まずそれをどうするかをスタートにすべきではないか。テーマを解決しないから、都度出てくることになる。

（市民文化局区政推進課）

だからこそ、柔軟なしくみとしている。1つの区民会議という仕組みではなく、やるべきものによって形を変えてチャレンジする枠組みにしていく。

（7） 従来の課題への対応はどうするのか。

（市民文化局区政推進課）

何が課題かにもよって、対応も異なる。

（8） ターゲットは、どうやって絞るのか。

（市民文化局区政推進課）

行政の方でこれまでのものを紐解きながら、提示させていただく場合もあるし、皆さんと一緒に考えさせていただく場合もある。

（9） コーディネートは大事だと思うが、主体は誰なのか。区役所は手一杯な状況だと思う。

（市民文化局区政推進課）

1つの仕組みとして、柔軟な仕組みというより、多種多様な場を設けていきたい。誰がイニシアチブを取るのかは考えていきたい。

（10） 希望のシナリオで区の職員が頑張っていると思うが、この取り組みについて、区の職員は納得しているのか。

（麻生区役所企画課）

希望のシナリオということで、大きなことに取り組んでいて、限られた職員の中でやっていくのは大変だと思う。同時期に企画課だけで検討をするのは、難しいと感じているが、区民の方の意見をどう取り入れていくかということは重要だと思っているので、その仕組みは考えていかないといけないと思っている。

（11） 区民会議は提案だけで終わってしまい、途中で途切れてしまった。それを形にしたいということで、別にグループを作って、2年間で冊子を作った。これまでの12年間の議論で、核心をついた意見が出ており、課題は出ているので、それを深堀していかないと、また同じ話が出てくることになる。今までの12年間を活かして、形にしていただきたい。

（市民文化局区政推進課）

第6期に関わった方は、途中で終わった感じがあり、申し訳なかった。途中で立ち消えになっているのと、仕上げきっていないというのは、重要な意見である。これから新しくするの

も、リセットするわけではなく、これまでの取組を土台として、進めていきたい。区民会議は、20 人、2年の枠組みで窮屈であったり、取組が知られていないということがあったので、より多くの方に関わっていただきたい。7区一律の取組をするわけではなく、麻生区スタイルでやっても良いと思う。

（12） これから取組を進める上で、区の権限は、どういう力を持っているのか。

（市民文化局区政推進課）

地域課題対応事業で地域の皆さんと一緒に解決していく場合もある。また、場合によっては、市民活動の方が自主的にやっていくものもある。その中間に、市や区の取組として解決していくものもある。区役所の事業については、幅が限られていて、縦割り行政なので、それをテーマとする時に、どういう参加の場にしていくのかというのは、課題である。これまでも、本庁と区で協議する場はあるが、機能できていないので、機能させるためにどうするか、局と一緒に解決しないといけない課題にどうアプローチをしていくかを検討していきたい。

（13） 区民会議の目的は、住民自治を育てようということで起こったと認識している。問題を作ったものを、自治として受け継いで、継続して活動してもらいたいという意図があったと思う。ただし、区民会議の2年間で問題をそこまで絞ることができないので、もっと任期を延ばしても良いかもしれない。行政には、サポートをしてもらい、住民が長としてやっていくのが、住民自治の基本であると思う。そのため、テーマは、行政から提示されるのではなく、「まちのひろば」などで、課題を抽出し、そこから拾い上げていくのが良いのではないか。

（市民文化局区政推進課）

自分で考えて実行するのはできるが、考えたことを誰がやるかということは、難しい。

まちづくり協議会は区によってやり方が違っていたが、区民会議は条例で定められていたので、枠が決まっていた。継続して取り組むためにはどうしたら良いのか、また多くの方に参加してもらうにはどうしたら良いのか、いつくかパターンがあると思うので、整理しながら進めていきたい。

（14） 柿生駅南口の再開発が始まっているが、それに参加できるしくみを新しい参加の場の中で作ってほしい。鶴川駅が今度リニューアルされるが、リニューアルされるにあたって、どういう駅にしたいかのコンペがあり、そういう中で参加できるような仕組みがほしい。

（市民文化局区政推進課）

再開発のまちづくりは、一定のルールが決まっているが、地権者の権利関係などに、どの程度枠を広げて、市民の人が何かを言えるのかは微妙な問題があると思うが、まちづくり関係部署とも共有していきたい。

（15） やまゆりとSDCの関わりはどうなるのか。また、市民活動と企業を結びつけていただけると良いと思う。

（市民文化局協働・連携推進課）

色々なものをつなぎ合わせていく中で、様々な創発が起こってくるのではないかというのを期待して、新たなしくみを作り上げていくということで、各区でSDC創出に向けた取組を進めているところである。

一方で、やまゆりは、麻生区の中間支援としての位置づけであると思う。SDCの機能のすべてをやまゆりに集約するのではなく、やまゆりは重要なパーツの1つとしてやっていただく。

（麻生区役所企画課）

SDCの議論がまだ進んでいないところではあるが、その中でやまゆりが担ってきた部分とどう同じ部分があって、足りない部分はどこか、そういうところを見極めながら、作っていく作業になる。

（16） このテーマは、大きすぎる。役所は、有識者と議論されていると思うが、住民にどれほど理解がされているのか。住民自治の原点として、どうしていくかというのは、何十年も前から議論されてきた。難しい言葉が並んでいるので、市民にわかってもらうのは難しいと思う。地域のことを知っているのは、住民であり、その地域の人が問題を提起するだけではなくて、解決に汗をかくというのが、趣旨だと思う。色々な問題があるなら、住民との対話をもっと重ねていただきたい。

（市民文化局区政推進課）

我々も皆さんと対話を重ねて進めていきたい。試行の2年間もずっと対話の場と考えているので、やってみないと、参加の場として何が良いのかがわからないので、考えながら進めていきたい。